

# 米議事堂襲撃：深層国家による、愛国者運動を潰すための ニセ旗作戦

SOTN

January 7, 2021



作戦グラディオ C (NATO: 北大西洋条約機構)

この目を見張るワシントン DC のドラマは、左翼によって演じられたもので、右派を悪魔化し、共和党の選挙人投票詐欺への反対を、終わらせるために、深夜に計画されたものである。

民主党は、選挙人投票に対する連邦議会の反対を押し黙らせるのに、必死になっていた。さまざまな米上院議員が、数々の激戦州について、自分たちの反対意見をひとたび述べると、人を食ったやり方で盗まれた、この選挙についての真実が、スチールが起こってから初めて、テレビで放送された。深層国家は、その証拠が、そんなふうには拡散されなくなかった——それはあまりにもひどいものだった！ 1月6日の合同議会セッションの公的記録は、盗まれた2020年米大統領選挙の決定的な証拠を、永遠に止めることになりそうだった。

そこで彼らは、あらゆる人の目をそらすために、議事堂ビルのドラマティックな攻撃を演じて見せた。このブラック作戦は、トランプ・サポーターを装った、アンティファ・アナキストによって導かれた。議事堂ビルの安全が、これほどおろそかだった理由はそれで、

トランプ応援者が悪者に見えるように、ビルの攻撃が仕掛けられていた。議事堂の入った者たちの中に MAGA 抗議者たちがいたのは確かである。しかし彼らがそこにいたのは、「ストップ・ザ・スチール」のためであった。「盗まれた投票用紙によるソフト・クーデタ」が、米議会によってめくら版を押されたのだとすれば、MAGA 抗議者は、不法と裏切り行為に抗議するあらゆる権利を持つだろう。

民主党（と深層国家）は、連邦議会の共和党員たちに、選挙人票を確定する自分たちの戦いを諦めさせるために、何か非常に恐ろしいことをやらなければならなかった。それには、議事堂ビルを占領するフェイクをやってみせるより、うまい方法があるだろうか？ 彼らは、ペロシのオフィス (<http://stateofthenation.co/?p=45964>) や、上院の部屋にまで入り込んで (<http://stateofthenation.co/?p=45959>) で、うまく写真を撮ることまでやった。一度、これらの「ショッキングな」写真が議会内に出回り、またワシントン官庁街やインターネットに出回ると、左翼はそれらを、右翼を攻撃するための、この上ない証拠として利用する。

要するにここで言えることは、議事堂ビルの占拠は、細心に工作したニセ旗ブラック作戦で、それは、FBI や CIA や議事堂警察などまで含む、米情報局共同体によって、監督されたものだという事である。これこそまさに、抗議者たちが、警察によるほとんど何の抵抗もなく、内部に侵入でき、安全保障というようなものは、意図的に何も設けられていなかった理由である。実際、このもの全体が、いくつかの狙いと目的をもった、明らかな「セット」であり、それはやがて、数日のうちに明らかになるであろう。つづめて言えば、このグローバリストの作り出したニセ旗事件は、あの「ドイツ国会議事堂放火事件」のように利用されるだろう。それは 1933 年、ヒトラーが、ドイツの首相として宣誓した直後に、自己の権力を強化するために、利用したものである。バイデンは本質的に、第 4 帝国の「フェューラー」として据えられたものである。

どこかで聞いた話ではないですか？！

——情報アナリスト & 元軍事オフィサー

**SOTN 編集者ノート：**——議事堂ビルでの、CIA の細心に仕組まれたドラマについては、ここを見られたい：





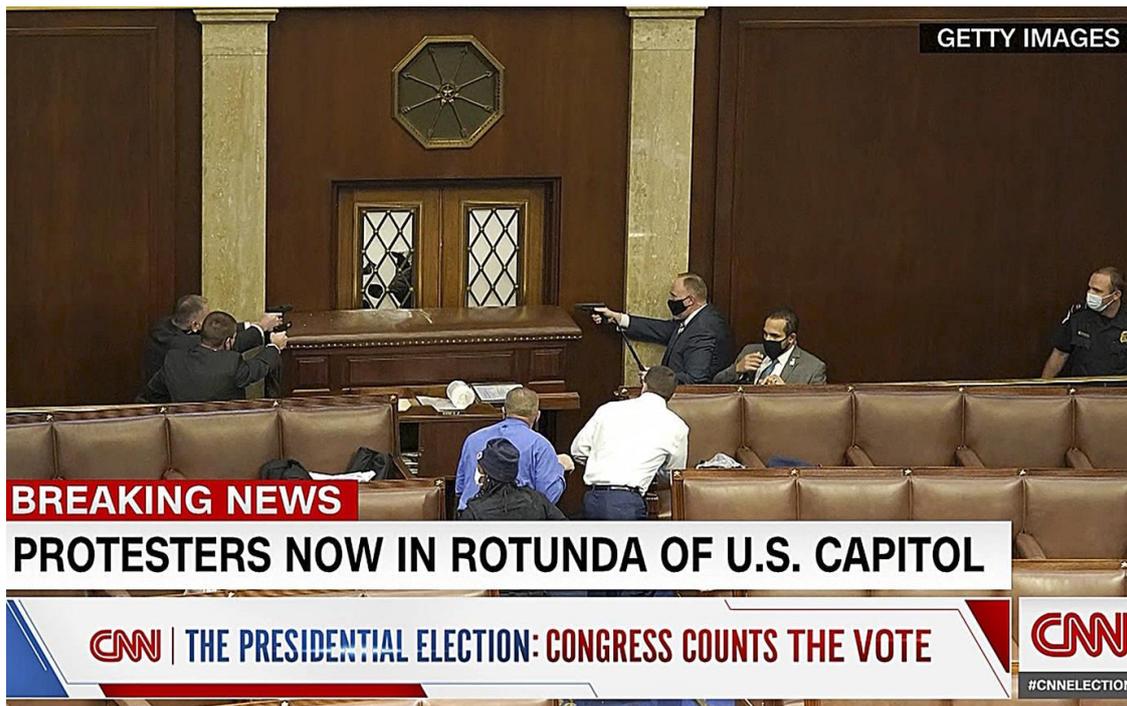












彼らが何をしているか、おわかりだろうか？

それはいつの場合も、呪文のように働く！

JFK 暗殺  
オクラホマ市庁爆破  
ウェイコ包囲と虐殺  
9・11 テロリスト攻撃  
サンディフック集団射撃  
マンダレイ・ベイ虐殺  
米議会ビル襲撃

どうしても、はっきりさせておきたいことがある：——**米議会ビル襲撃**は、共産主義の民主党、扇動的「深層国家」、および New World Order グローバリスト陰謀団によって、愛国者運動を犯罪化するための手段として、利用されるであろう。この国家スポンサーによるニセ旗作戦は、全く意図的に、「第三千年期のドイツ国会議事堂放火」として、実行されるであろう。

——以上

[Gretchain 訳注]

いつも同じ観点から、アメリカという国家の潜在的な危機を観察し、警告を発してきた SOTN の分析を読んでいただきたい。特に 2 ページ下の、現時点と、ヒトラーのドイツの台頭との比較は、予言のように的確ではないだろうか？ 多くのビデオ時評家が言っているように、我々の住む世界は今、形としては、どん底に落ち込んだかのようなものである。しかし、まさにトランプ大統領の言うように、我々は始まったばかりだと言ってよい。今始まったばかりとは、今日覚めたばかりということである。

我々はこういう経験を協力して乗り越え、新しく建設するために生きている。バイデン側は完全に悪の世界に生きている。そのような世界から、何か積極的なものが出てくることはあり得ない。彼らは潜在意識ではそれを知っているが、そうでないかのように虚勢を張っているにすぎない。勝利は我々の側にしかない。これはまるで、力学の初歩を学んでいるようなもので、もし我々が負けるとしたら、それは絶望や無気力、彼らのプロパガンダを信ずる、相変わらずの我々の愚鈍さが、どうしても抜けない場合だけである。我々はここ数日だけでも、新聞がいかに悪辣なウソをつくものであるかを知った。それだけでも我々は、どれだけ進歩したかしのれない。